

研究課題

豊かな人間性を育む

教育課程と校長の在り方



I 趣 旨

子どもを取り巻く環境は大きく変化し、家庭や地域社会における教育力の低下が指摘されている。また、いじめ・暴力行為・不登校等の様々な問題が起きている。さらには、子どもの自制心や規範意識の希薄化等の心のありように関わる課題や、現実から逃避し、今さえ良ければよいという利己的な考えに陥りがちな子どもの現状も指摘されている。

このような中で、子どもたちが夢や希望をもって未来を拓き、人間としてより良く生きようとする力の育成や他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、正義感や公平さを重んじる心の育成等、心の教育の推進がより重要になってきている。学校だけではなく家庭や地域などと連携・協働して、道德教育や人権教育を充実させ「豊かな人間性の育成」を図らなければならない。

本分科会では、人間性豊かな日本人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善に向けた校長の役割と具体的な方策を明らかにしていく。

II 研究発表と研究協議

1 研究発表

「互いに高め合い 心豊かに行動する子供の育成」
～地域の自然や特性を生かした豊かな心の育成～
石狩地区 千歳市立支笏湖小学校 品田 敏

(1) 石狩管内校長会の研究

石狩管内小中校長会では、平成25年度より研究主題を「新たな時代を切り拓く『生きる力』を育成する学校教育の確立」とした。道德教育を中心とする様々な教育活動を通じ、自己尊厳や人権尊重の精神を高めることが重要であると考え、以下を課題として3か年の研究を進めている。

- ①命を守る豊かな心と健やかな体を育む教育課程の管理
- ②確かな学力を保证する教育課程の管理
- ③学び続ける教職員を育てる研修の推進

④協働性・機動性を発揮する組織マネジメントとサービス管理

⑤地域教育素材や人材を生かした教育の推進

⑥学校評価を生かした学校改善の在り方

(2) 支笏湖小学校の実践の背景

支笏湖小学校では、特に以下の内容を重要と考え実践を進めている。

- ①校長として方針を示し、教職員が共に学校を創る意識を醸成し学校力を高めている。
- ②外部人材の発掘、活用などのために、地域への情報発信を大切にしている。
- ③全学級年1回以上、「道德」の時間を公開している。
- ④合言葉の下に、職員同士が信頼し合い、前進へのチャレンジを続けるよう働きかけている。
- ⑤本校の特色である大自然に囲まれているという環境、地域との深い関わりをもつという利点を活用している。
- ⑥へき地性の評価のとらえ直しを提起している。

(3) 具体的実践例

①人権意識を育てるための地域と連携した全校活動と校長の役割

- ・自主性と規範意識、思いやりの心を育てる縦割り班活動
- ・道德実践の場としてのボランティア活動
- ・地域との協議、協力体制の構築と校長の役割の明確化

②豊かな心を育てるための全校職員が一体となった指導体制と校長のリーダーシップ

- ・命の大切さを学ぶ「支笏湖ふるさと学習」
- ・ビジターセンターの職員や森林管理署の協力を得て実施する野鳥学習
- ・支笏湖漁協やヒメマスふ化場等の協力を得て実施するヒメマス学習
- ・「子どもビジターガイド」として学んだことの発信

(4) まとめ

以上の具体的な活動を通して、

- ①自然の偉大さ、生命の畏敬の念を感じ取ることができる。
- ②善悪の行動判断を身に付け、お年寄りなどへの思いや

りの心をもつことができる。

- ③ 日常の活動の多くを縦割りで行うことにより、互いを受け入れ、規範意識を育てることができる。
- ④ 教育課程を整備し、運営に参画する教師集団をつくる。
- ⑤ 幼少期からの集団のよさやマイナス面を見つめ、より民主的な集団を育てることが求められる。

2 研究協議

(1) 研究発表に対する質疑応答

- ① **問** 「道徳性の課題は子どもの心の中にあると考え、したがって道徳教育とは、個人の考えや規範意識に働きかけることと考えることであると考えてしまう。しかし、この一見自明な常識をこそ疑ってみる必要がある」とあるが、疑う必要性がある理由は何か。

答 その子の心が悪い、その子の心の中に問題があるのか、本当にそうなのかと突き詰めていくと、その子の問題はその子の人間関係を含めてとらえる必要がでてくる。他の子との関係の中でその子の問題は表面化してくる。だから、その子の心だけでなく、周りの子も変えないと、全体は変わらない。徳目の指導だけにとどまると、個人の心の問題で終わる。全ての子どもが考え、行動する機会を与えることを意識する必要がある。

- ② **問** 小学校時代には良い子が中学生になると変わる。小学校時代には見えなかった問題が表面化する。小中の引継ぎや対応での連携はどうなっているか。

答 子どもは千歳中学に進学するが、7小学校から集まるためにカルチャーショックを受けるようである。小中の教頭や教務主任レベルでの相談・協議、子どものオープンスクールへの参加や教員の参観日への参加による中学校の様子の把握、卒業生が小学校に遊びに来た時に中学校の様子を尋ねるなど、卒業後もつながりを大切にしている。

- ③ **問** 職員構成、経験年数はどうか。またマイナスイメージというと、今問題になっている「貧困」があるが、その状況はどうか。

答 男女比は半々、40代と20代が同数で職員の構成のバランスはよい。40代が中心に学校を動かし、職員には活気が感じられる。へき地性として「貧困」が仮にあるとしても、本校では就学援助もあるが現段階ではなんとかなっている。へき地に対するマイナスイメージが現実には違う場合もあるという認識が「発想の転換」の底流にある。

(2) グループ協議

研究発表の内容とともに、各自持ち寄った実践交流資料を基に、以下のようなグループ協議が行われた。

討議の柱1

「豊かな心」「人権感覚」育成のための実践、教育

課程の工夫はどうあるべきか。

① 1 グループ キーワード「かかわり」

人と人との関わりをどう深めていくかがポイント

- ・道徳教育推進教師を中心に、まずは授業実践
- ・総合的な学習の時間や行事等で地域ぐるみの取組
- ・ユニバーサルデザインに基づいた学習環境の構築
- ・発達支援教育の取組を行政とともに。

② 3 グループ キーワード「地域密着」

道徳の時間で活用する地域素材がポイント

- ・道徳の全体計画の整備、充実
- ・道徳教育の要である道徳の時間の充実
- ・地域の身近な素材を積極的に活用

③ 5 グループ キーワード「かかわり」

人としての温かさ、将来を見通した関わりも大切

- ・教育課程の工夫のため、地域・家庭のかかわり
- ・保護者との円滑な関わりを生む教師の接し方
- ・温かさ、共感、協働の意識を大切に
- ・小学校6年間ばかりでなく将来も見通しながら

討議の柱2

「豊かな心」「人権感覚」育成のための実践を推進するため、校長のリーダーシップをどのように発揮するか。

④ 2 グループ キーワード「新しい風」

校長が新しい識見をもって教職員に刺激を与え、教職員を育てることがリーダーシップ

- ・前年度踏襲型からの脱却
- ・校長が視点を変えて問題を提起
- ・成果と活動の見直しの視点を整理し活動の連動化
- ・校長直属のプロジェクトチーム
- ・ボトムアップを活性化させ、教師の力を引き出す

⑤ 4 グループ キーワード「つながり」

地域とともに歩む学校

- ・校長は様々なことがしやすくなるための地域との窓口
- ・校長が、地域に顔を出し、つながりを深める
- ・教職員と地域の距離を縮める校長の情報発信

⑥ 6 グループ キーワード「校長の汗」

校長が動き回って流れを創る

- ・教育課程マネジメントでの強いリーダーシップ
- ・組織のエネルギーをアップ
- ・地域との関係づくり

Ⅲ ま と め

1 討議の柱1について

○「豊かな心」「人権感覚」育成のための実践、教育課程の方向性を示す。

○人権感覚は、具体的な活動を通して身に付く。

- 子どもの姿や育てるべき態度や能力を具体的に職員に示す。
- 「道徳の時間」と具体的な実践のつながりを明確にする。
- 互いに思いやることを基盤とするコミュニケーションを重視した活動を、教育課程に盛り込む。
- 学校や地域の特性をプラスととらえ、地域の環境資源や人的資源を教育課程に取り込む。
- 地域住民と協働することで、児童が地域の生活や保護者の仕事にも目を向けることができ、自己有用感や自尊感情を高めることができる。
- 情報を発信し、地域や保護者、関係機関との協力関係を築く。
- 地域の環境資源や人的資源をとらえ、実態に応じた、様々な保護者や地域参加型の教育活動を推進する。
- 校内研究を通して実践や教育課程を工夫する。
- 子どもの実態を自己評価シートにより評価させるなどして、学級の傾向を把握する。
- 校内研修を通して、教職職員の協働化、教職員の人権感覚を高める。
- 既存の校務分掌やプロジェクトチームなど校内の運営体制を組織に位置付ける工夫をする。
- イレギュラーの地域行事に対応する時数を確保するために、事前の打ち合わせなどを入念に行う。

2 協議の柱2について

- 「豊かな心」「人権感覚」育成の目的・意義を教職員に浸透させ、方針や方策を明確に示す。
- 「なぜ必要なのか」を価値付けし、方針や方策（組織や推進体制）を教職員に示しリーダーシップを発揮する。
- 支笏湖小の事例のように「支笏湖自治振興会」という地域の組織や地域会員を含めたPTCA組織で活動するなどして、地域とのつながりをコーディネートする。
- 実践を協働化する。
- 支笏湖小の事例のように「品田ファミリー」をキーワードとし職員間のコミュニケーションを大切に学校づくりを進める。
- 校内で実践の価値を共有する場を計画的に設け、成果と課題を確認する。
- 学校評価や職員の自己評価、学校関係者評価にも意識的に「心の教育」の項目を盛り込み、客観的な評価を行う。
- 小中で道徳の時間の授業を公開し合い、指導法を改善したり、教員の指導力を向上させたりする。
- 道徳教育推進教師を活用し、道徳に対する意識を高める。

3 今後の課題

- 1 心の教育に関わる教育理念を教職員が理解し、協働で教育活動の創造・推進を果たすための校長の役割について
 - ①教育課程編成や校内研修等で、協働による実践を推進できるように仕組む。
 - ②学校の自己評価や学校関係者評価を含めた学校評価、職員の自己評価との連動を一層進める。
- 2 豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善における校長の役割について
 - ①子どもの人間関係や心の有り様を見取る教育課程の評価を工夫し改善に生かしていく。
 - ②「豊かな心」「人権感覚」は集団の中での関わりで育まれるもので、日々の学級づくりや授業づくりで豊かな人間関係を築くことが基盤である。したがって、今後とも日常の実践を大切にしなければならない。
- 3 家庭・地域と連携した心の教育推進のため、校長が果たす役割について
 - ①校長は「地域との連携のコーディネーター役」との自覚のもと、汗をかくことをいとわない。
 - ②地域の環境資源、人材資源の活用等、保護者や地域と一体となった教育活動の組織化を更に進める。

「第5分科会に参加して」

新篠津村立新篠津小学校 村 山 浩

まず、実践発表された千歳市立支笏湖小学校の品田校長先生に心から敬意と感謝を申し上げたい。大雨で学校が避難所になり、地域に被害が出ている中、前日はほとんど睡眠をとることができず、当日も現地に来ることができるか、心配される中での発表でした。たくさんの方の示唆を与えられた発表の中でも、へき地性のマイナスイメージを独自の教育活動を展開できるという魅力に変え、職員に働きかけたリーダーシップと道徳性を「自分自身が多くの人に理解されていく見通しの中で自己の行動が主体的に選択されていく過程」と捉えた指導者としての力量に感銘を受けました。

レポート交流では、地域で育つ子どもたちだからこそ、地域の素材や教育資源を生かす努力を最大限すべきとの確認が多くのグループでなされていました。討議の柱や視点を明確に分かりやすく説明いただいた運営の先生方、最後に分科会のまとめや道徳教育の今後の見通しを説明していただいた道小の事務局の方々にも感謝いたします。子どもたちの豊かな人間性を育てるためには、校長のリーダーシップが十分に盛り込まれた教育課程を編成することが重要だと感じました。